



# AT8 32X

---

*AMD Athlon 64x2/64FX/64 システムボード*  
*Socket 939*

ユーザーマニュアル

---

---

## 著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

---

---

# 目次

---

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1-1</b>
1-1.	機能と仕様.....	1-1
1-2.	レイアウト.....	1-3
<b>第 2 章</b>	<b>ハードウェアのセットアップ</b> .....	<b>2-1</b>
2-1.	マザーボードのインストール.....	2-1
2-2.	CPU およびヒートシンクの取付け.....	2-2
2-3.	システムメモリの取付け.....	2-4
2-4.	グラフィックカードの設置.....	2-6
	CrossFire モード:.....	2-7
2-5.	コネクタ、ヘッダ、スイッチ.....	2-9
	(1). ATX 電源入力コネクタ.....	2-9
	(2). FAN コネクタ.....	2-10
	(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ.....	2-11
	(4). 内部オーディオコネクタ.....	2-11
	(5). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続.....	2-12
	(6). ウェークアップヘッダ.....	2-13
	(7). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ.....	2-14
	(8). シリアル ATA コネクタ.....	2-15
	(9). GURU クロック接続ヘッダ.....	2-15
	(10). PCI Express x1 スロット.....	2-16
	(11). PCI Express x16 スロット.....	2-16
	(12). 追加 USB ポートヘッダ.....	2-17
	(13). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ.....	2-17
	(14). 前面パネルのオーディオ接続ヘッダ.....	2-18
	(15). POST コードディスプレイ.....	2-19
	(16). 背面パネルの接続.....	2-20
<b>第 3 章</b>	<b>BIOS について</b> .....	<b>3-1</b>
3-1.	μGuru Utility.....	3-3
3-2.	Standard CMOS Features.....	3-10
3-3.	Advanced BIOS Features.....	3-14

---

---

3-4.	Advanced Chipset Features.....	3-16
3-5.	Integrated Peripherals .....	3-20
3-6.	Power Management Setup .....	3-24
3-7.	PnP/PCI Configurations.....	3-27
3-8.	Load Fail-Safe Defaults .....	3-29
3-9.	Load Optimized Defaults .....	3-29
3-10.	Set Password .....	3-29
3-11.	Save & Exit Setup .....	3-29
3-12.	Exit Without Saving.....	3-29
<i>付録 A.</i>	<i>オーディオドライバのインストール.....</i>	<i>A-1</i>
<i>付録 B.</i>	<i>LAN ドライバのインストール.....</i>	<i>B-1</i>
<i>付録 C.</i>	<i>ULi1575 SATA RAID ドライバの インストール.....</i>	<i>C-1</i>
<i>付録 D.</i>	<i>Sil3132 SATA ドライバのインストール.....</i>	<i>D-1</i>
<i>付録 E.</i>	<i>Cool 'n' Quiet ドライバのインストール.....</i>	<i>E-1</i>
<i>付録 F.</i>	<i>USB 2.0 ドライバのインストール.....</i>	<i>F-1</i>
<i>付録 G.</i>	<i>ABIT <math>\mu</math>Guru ユーティリティのインストール.....</i>	<i>G-1</i>
<i>付録 H.</i>	<i>POST コード定義.....</i>	<i>H-1</i>
<i>付録 I.</i>	<i>トラブルシューティング.....</i>	<i>I-1</i>
<i>付録 J.</i>	<i>テクニカルサポートの受け方について.....</i>	<i>J-1</i>

---

# 第 1 章 はじめに

---

## 1-1. 機能と仕様

---

### 1. CPU

- AMD Athlon 64x2/ 64FX/ 64 プロセッサ (2000MT/s システムバス) 用ソケット 939
- AMD K8 CPU Cool 'n' Quiet テクノロジをサポート

### 2. チップセット

- ATI RD580 RADEON Xpress 3200 チップ
- ULI 1575 SB チップ
- グラフィック向けにデュアル・フル PCIE x16 帯域をサポート

### 3. メモリ

- 4つの 184-ピン DIMM ソケット
- デュアルチャンネルDDR 400/333/266 バッファなし ECC/Non-ECC メモリをサポート
- 最大 8GB の最大メモリ容量をサポート

### 4. Graphics

- ATI CrossFire™ テクノロジー搭載デュアルグラフィックカードに対応する 2つの PCI-Express X16 スロット
- 高性能クロスファイヤ設定のための 2つの X16 グラフィックス・リンク

### 5. ABIT Engineered

- ABIT Silent OTES II テクノロジー
- ABIT μGuru® テクノロジー

### 6. Serial ATA

- 4つの SATAII 3Gb/s RAID 0/1/0+1/5 対応
- SATA AHCI をサポートし、ネイティブ・コマンド・キューとネイティブ・ホットプラグを実現
- オンボード・シリコンイメージ SiI3132 PCIE で 2つの SATA 3Gb/s RAID コントローラをサポート

### 7. LAN

- オンボード 10/100/1000M PCIE コントローラ

### 8. IEEE 1394

- PCI コントローラによる IEEE1394 サポート

## 9. オーディオ

- オンボード 7.1 CH HD オーディオ CODEC
- プロ仕様のデジタルオーディオインターフェイスの S/PDIF 入出力をサポート
- 自動ジャック検出をサポート

## 10. 内部 I/O コネクタ

- 2x PCI-E X16 スロット
- 2x PCI-E X1 スロット
- 2x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 2x Ultra DMA 133/100/66/33 IDE コネクタ
- 6x SATA 3G コネクタ
- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x IEEE 1394 ヘッダ
- 1 x FP-Audio ヘッダ
- 1 x CD-IN

## 11. 背面パネル I/O

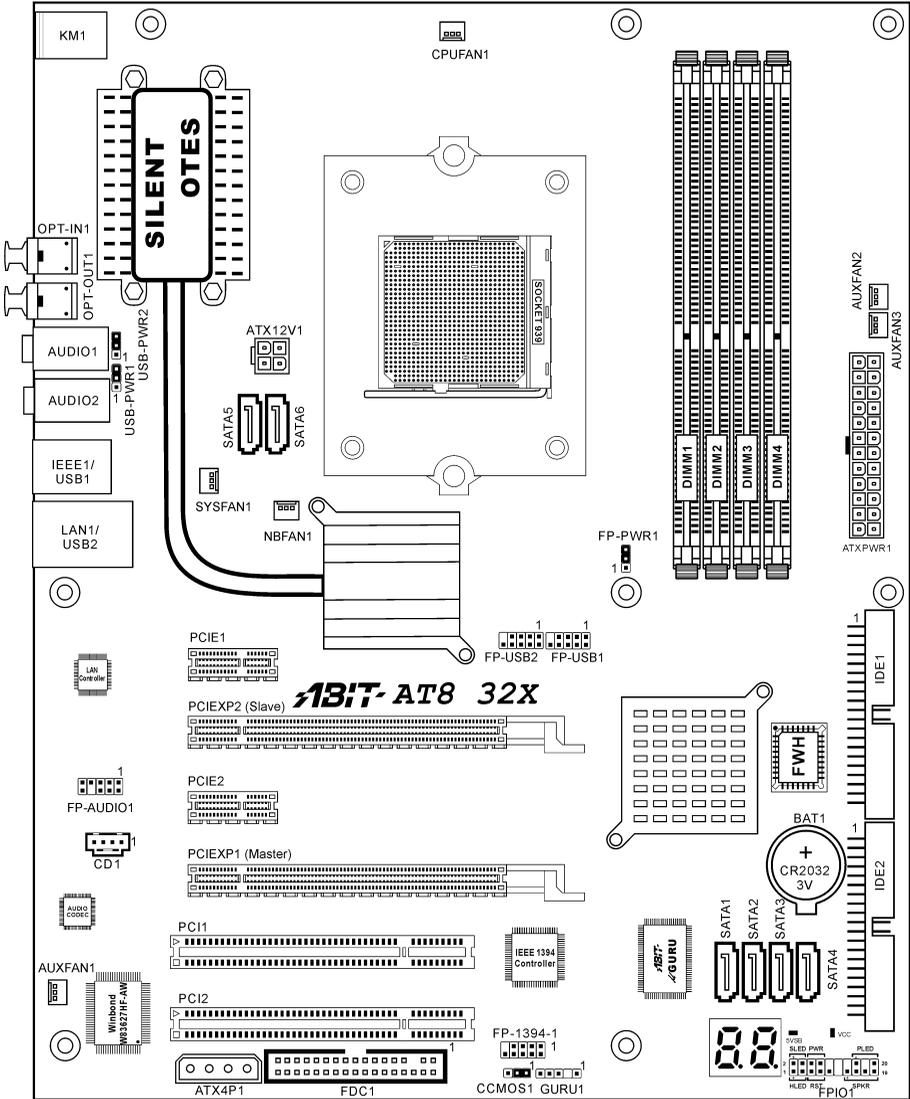
- 1x PS/2 キーボードコネクタ
- 1x PS/2 マウスコネクタ
- 1x OPT-OUT1 コネクタ
- 1x OPT-IN1 コネクタ
- 1x AUDIO1 コネクタ (サラウンド左/サラウンド右、リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ)
- 1x AUDIO2 コネクタ (Mic-In、ライン入力、ライン出力)
- 4x USB 2.0 コネクタ
- 1x RJ-45 LAN コネクタ
- 1x IEEE 1394 コネクタ

## 12. その他

- ATX フォームファクタ 305 x 245 mm

※ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

## 1-2. レイアウト





## 第2章 ハードウェアのセットアップ

**取付けを開始する前に：**ATX12Vの電源装置のスイッチをオフにする(+5Vスタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

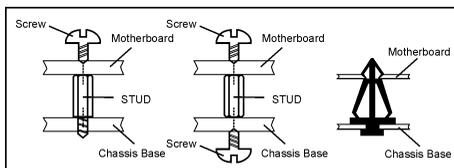
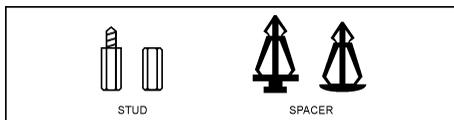
### 2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の2つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたなら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終わったら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

**注意：**PCBサーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサーがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサーを取り外してください。



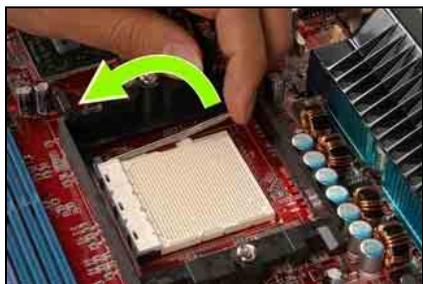
## 2-2. CPU およびヒートシンクの取付け

CPU とヒートシンク/ファンの組立部品をインストールするまえに次の注意事項をお読みください。

1. 必ずヒートシンクとファンの組立部品がインストールされた状態で CPU をお使いください。
2. プロセッサのピンには触れないでください。
3. ヒートシンクとファンの組立部品を再インストールする場合は、ヒートシンクの表面をきれいにし、新しい放熱グリースを塗ってください。



3. 固定レバーを下ろし、プロセッサをしっかりと固定します。



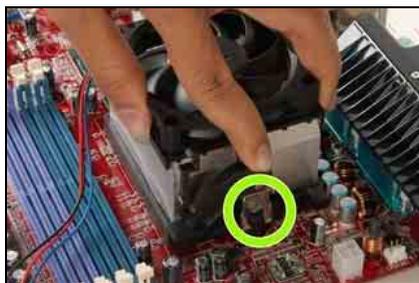
1. ソケット固定用のレバーを引き、押し上げてください。



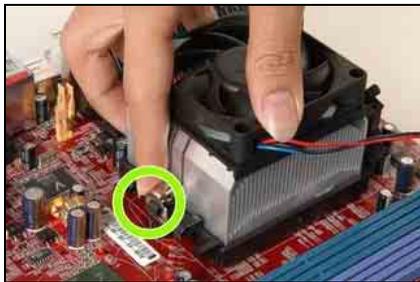
4. 放熱グリースを表面に塗ります。



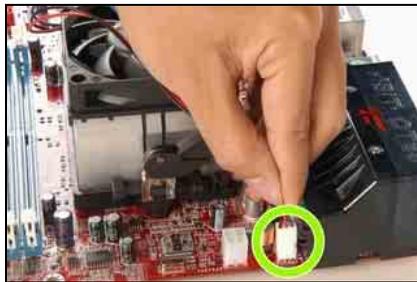
2. プロセッサの三角印の付いた角をマザーボードの印に合わせ、プロセッサをそのまま垂直にソケットに押し込みます。



5. ヒートシンクとファンの組立部品をリテンションフレームに取り付けます。ヒートシンクのクリップをソケットのつまみに合わせ、ネジクリップをつまみに取り付けます。



6. 反対側でリテンションクリップをまっすぐに押し、プラスチックのつまみをリテンションフレームに固定します。



8. ヒートシンクとファン組立部品の 4 ピン電源プラグを CPU FAN コネクタに接続します。



7. カムレバーをまわしてリテンションフレームを固定します。

ヒートシンクとファン組立部品の詳しいインストール方法については、お買い上げのヒートシンクとファン組立部品付属の取扱説明書をお読みください。

## 2-3. システムメモリの取付け

本マザーボードは、8GB までのメモリ拡張サイズを持つ、シングル/デュアルチャネル DDR 400/333/200 メモリモジュール用に、4 つの 184 ピン DDR DIMM スロットを提供します。

表 2-1. メモリ設定の例

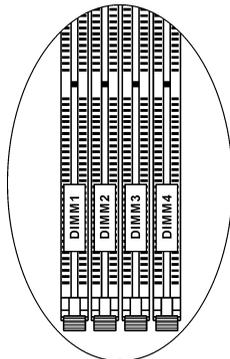
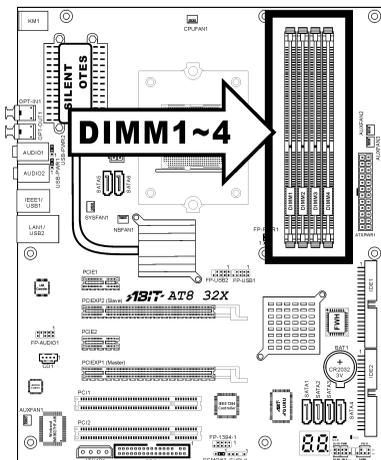
バンク	メモリモジュール	合計
Bank 0, 1 (DIMM1)	256MB, 512MB, 1GB, 2GB	256MB ~ 2GB
Bank 2, 3 (DIMM2)	256MB, 512MB, 1GB, 2GB	256MB ~ 2GB
Bank 4, 5 (DIMM2)	256MB, 512MB, 1GB, 2GB	256MB ~ 2GB
Bank 6, 7 (DIMM2)	256MB, 512MB, 1GB, 2GB	256MB ~ 2GB
システムメモリの合計		256MB ~ 8GB

表 2-2. AMD939 ピンプロセッサのために非バッファ DIMM サポート

データバス	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4	DRAM 速度	
					1T	2T
64ビット (シングルチャネル)	シングルランク	N/A	空	N/A	DDR400	DDR400
	ダブルランク	N/A	空	N/A	DDR400	DDR400
	空	N/A	シングルランク	N/A	DDR333	DDR333
	空	N/A	ダブルランク	N/A	DDR400	DDR400
	シングルランク	N/A	シングルランク	N/A	DDR333	DDR400
	シングルランク	N/A	ダブルランク	N/A	DDR200	DDR400
	ダブルランク	N/A	シングルランク	N/A	DDR200	DDR400
	ダブルランク	N/A	ダブルランク	N/A	DDR200	DDR333
128ビット (デュアルチャネル)	シングルランク	シングルランク	空	空	DDR400	DDR400
	ダブルランク	ダブルランク	空	空	DDR400	DDR400
	空	空	シングルランク	シングルランク	DDR333	DDR333
	空	空	ダブルランク	ダブルランク	DDR400	DDR400
	シングルランク	シングルランク	シングルランク	シングルランク	DDR333	DDR400
	シングルランク	シングルランク	ダブルランク	ダブルランク	DDR200	DDR400
	ダブルランク	ダブルランク	シングルランク	シングルランク	DDR200	DDR400
	ダブルランク	ダブルランク	ダブルランク	ダブルランク	DDR200	DDR333

デュアルチャンネル DDR の性能を得るには、次の規則に従う必要があります。

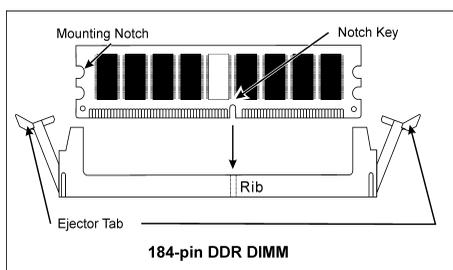
- 2つの DIMM モジュールを取り付けるとき: スロット [DIMM1]+[DIMM2] または スロット [DIMM3]+[DIMM4] に対して同じタイプとサイズの DIMM モジュールを取り付けます。
- 4つの DIMM モジュールを取り付けるとき: スロット [DIMM1]+[DIMM2]、およびスロット [DIMM3]+[DIMM4] に対して同じタイプとサイズの DIMM モジュールを取り付けます。



**注:** メモリモジュールを取り付けたり、取り外したりした後は、ハードウェアや BIOS セットアップの必要はありませんが、互換性に関する問題が生じた場合はまず CMOS メモリを消去してください。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。

1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリップに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかりと押しと、スロットの両側のイジェクトタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの2つのイジェクトタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。

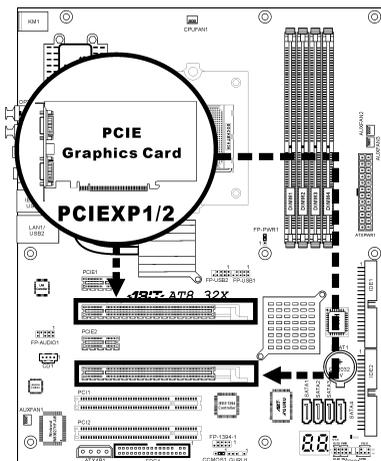


**注意:** 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

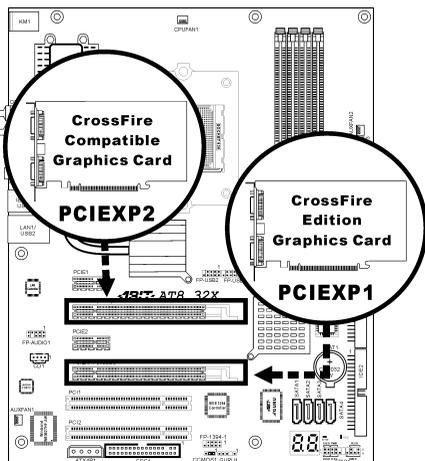
## 2-4. グラフィックカードの設置

本メインボードは、次の2種類のグラフィックモードに対応しています：ノーマルモード（シングルPCIeグラフィックカード用）およびCrossFireモード（CrossFire™ Editionグラフィックカード1枚およびCrossFire™ 互換グラフィックカード1枚用）。

注：ATI CrossFire™ テクノロジーは、現在、Windows XP サービスパック2 オペレーティングシステムのみに対応しています。



ノーマルモード：PCIeグラフィックカードをPCIEXP1またはPCIEXP2スロットに挿しこみます。



CrossFireモード：PCIEXP1（マスター）スロットにCrossFire™ Editionグラフィックカードを1枚、PCIEXP2（スレーブ）スロットにCrossFire™ 互換グラフィックカードを1枚挿入します。

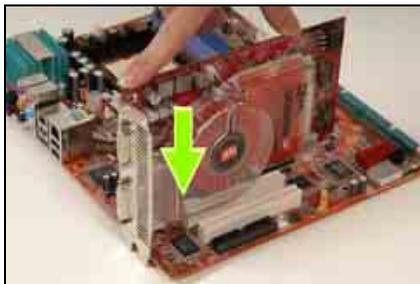
**CrossFire モード:**

CrossFire モードを有効にするには、次の手順を行ってください。

- CrossFire™ Edition グラフィックカードを 1 枚、および CrossFire™ 互換グラフィックカードを 1 枚用意します。
- グラフィックカードドライバが ATI CrossFire™ テクノロジーに対応していることを確認してください。最新ドライバは、ATI 社のウェブサイト ([www.ati.com](http://www.ati.com)) でダウンロードできます。
- 電源ユニットが、最低必要とされる電力を供給するのに充分かどうか確認してください。



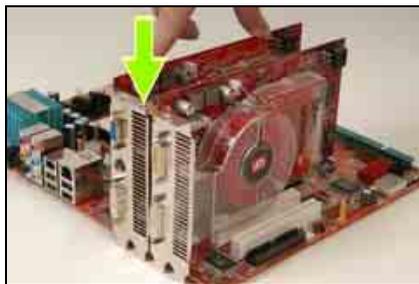
1. CrossFire モードを有効にするには、CrossFire™ Edition ATI グラフィックカードが 1 枚必要となります。(注: CrossFire™ Edition グラフィックカードのブラケットには、特別な CrossFire™ DMS-59™ コネクタが装備されています。)



2. メインボードの PCIEXP1 (マスター) スロットに、CrossFire™ Edition グラフィックカードを挿入します。



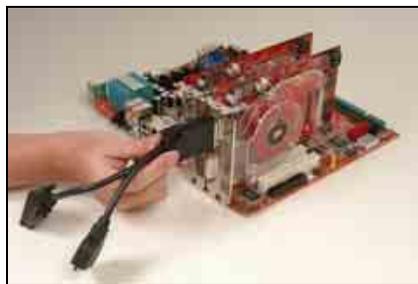
3. スレーブスロットには、CrossFire™ 互換 PCI Express グラフィックカードが 1 枚必要となります。(注: スレーブカードのブラケットには CrossFire™ DMS-59™ コネクタが装備されていません。)



4. PCIEXP2 (スレーブ) スロットに、CrossFire™ 互換 PCI Express グラフィックカードを挿入します。



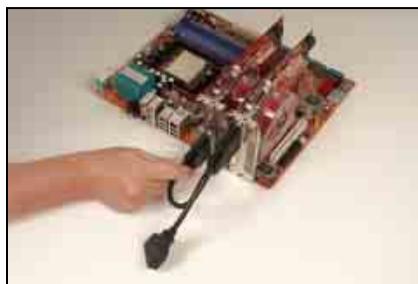
5. DMS-59™ コネクタを、パッケージに含まれる相互接続ケーブルに配置します。



7. ケーブルの DMS-59™ オスコネクタと、CrossFire™ Edition グラフィックカードの DMS-59™ コネクタを接続します。



6. DMS-59™ 相互接続ケーブルには、上図のように 3 つのコネクタがあります。コネクタ 1 は DMS-59™ オスコネクタ、コネクタ 2 は DVI-I メスコネクタ、コネクタ 3 は DVI-I オスコネクタとなります。



8. ケーブルの DVI-I オスコネクタと、CrossFire™ 互換 PCI Express グラフィックカードの DVI-I コネクタを接続します。次に、ケーブルの DVI-I メスコネクタをモニタに接続します。

## 2-5. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

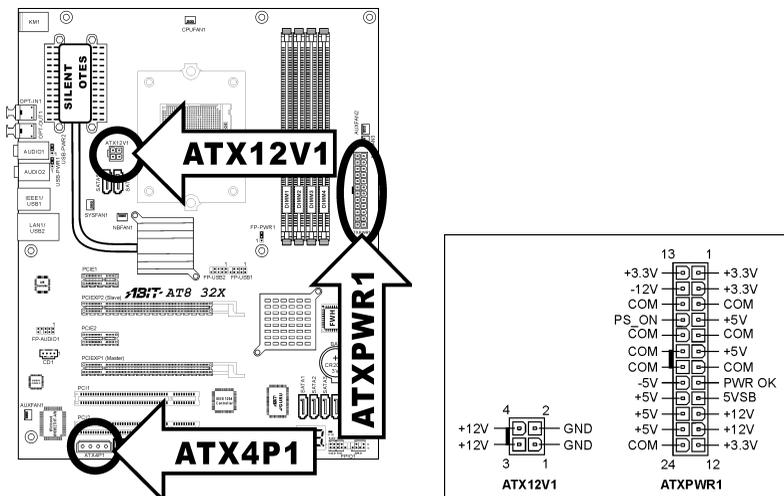
ここでは、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第 1 章に示します。

**警告:** 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、ACアダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC電源コードのプラグを差し込んでください。

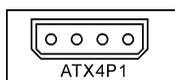
### (1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードは 2 つの電源コネクタを提供して ATX12V 電源装置に接続します。

**注:** この 24 ピン電源コネクタ “ATXPWR1” は旧 20 ピンタイプに対応しています。その際、ピンの方向に注意してください (ピン 11、12、23、24 は未接続のままとなります)。



**注:** 負荷の重いシステムの場合は、少なくとも 350W、20A +5VDC 容量の、呼び起こし機能をサポートする場合は、少なくともお 2A +5VSB 容量の電源装置に接続するようにお勧めします。



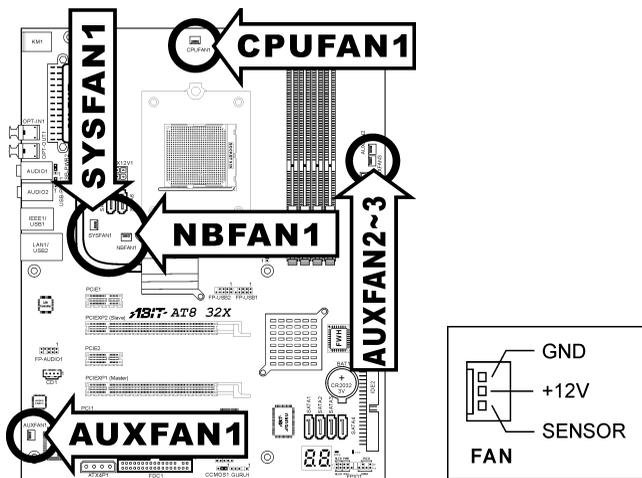
12V 補助電源コネクタ [ATX4P1] が PCI Express スロットに追加されたデバイスのために追加電源を供給。システムの安定性を考慮し、電源から 12V 電源を接続することを推奨します。

## (2). FAN コネクタ

これらコネクタはそれぞれシステムにインストールされたクーリングファンに電源を供給します。

- CPUFAN1 : CPU ファン
- SYSFAN1 : システムファン
- NBFAN1: チップセットファン
- AUXFAN1, AUXFAN2, AUXFAN3 : 補助ファン

**警告:** これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。

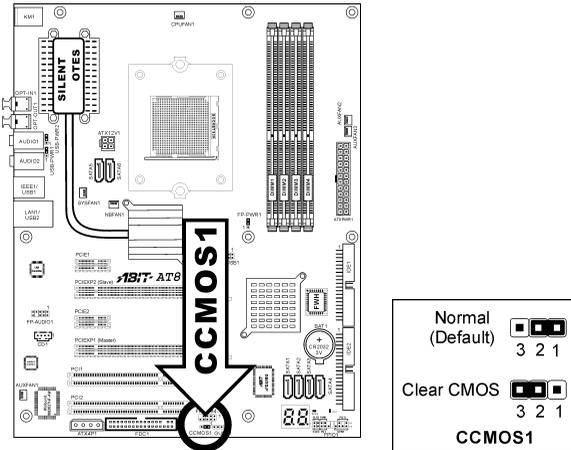


**(3). CMOSメモリアリリングヘッド**

このCCMOS1 ヘッドはジャンパキャップを使用して、CMOS メモリを消去します。

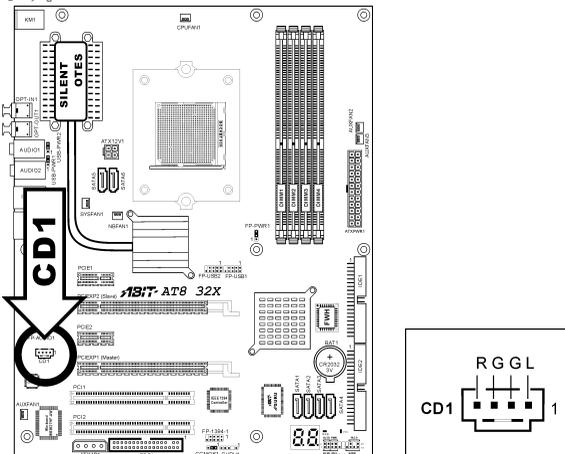
- ピン 1-2 ショート (デフォルト) : 標準操作。
- ピン 2-3 ショート : CMOS メモリの消去。

**警告:** CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。



**(4). 内部オーディオコネクタ**

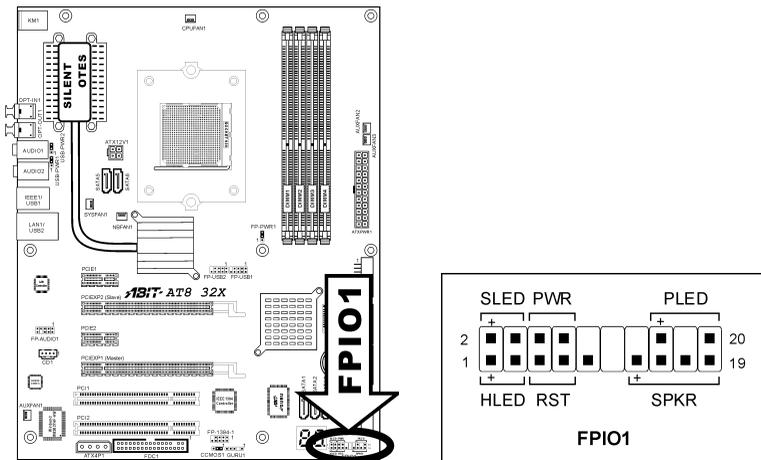
これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。



### (5). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続

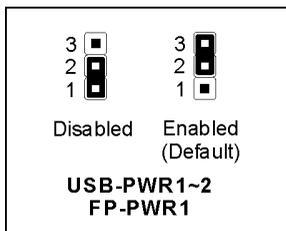
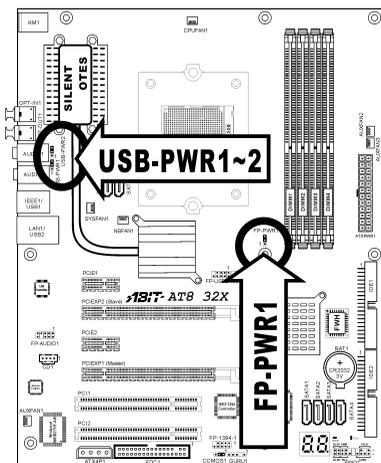
このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことですが、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。



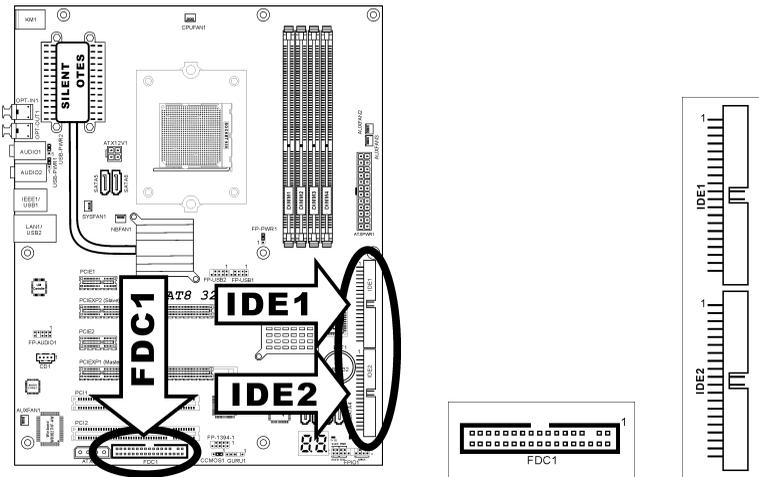
- **HLED (ピン 1、3) :**  
シャーシ前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5、7) :**  
シャーシ前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPKR (ピン 13、15、17、19) :**  
シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2、4) :**  
シャーシ前面パネルのサスペンド LED ケーブル (もしあれば) に接続します。
- **PWR (ピン 6、8) :**  
シャーシフロントパネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16、18、20) :**  
シャーシフロントパネルの電源 LED ケーブルに接続します。

## (6) ウェークアップヘッド



- USB-PWR1 :**  
 ピン 1-2 ショート : USB1 ポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。  
 ピン 2-3 ショート (デフォルト) : USB1 ポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。
- USB-PWR2 :**  
 ピン 1-2 ショート : USB2 ポートでのウェークアップ機能が無効にします。  
 ピン 2-3 ショート (デフォルト) : USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
- FP-PWR1 :**  
 ピン 1-2 ショート : FP-USB1, FP-USB2 ポートでのウェークアップ機能が無効にします。  
 ピン 2-3 ショート (デフォルト) : FP-USB1, FP-USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

## (7). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ

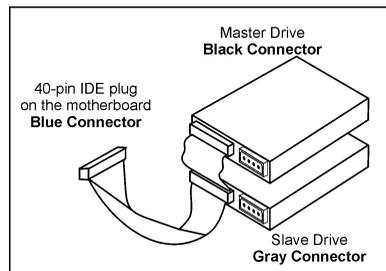


FDC1 コネクタは 34 ワイヤ、2 コネクタフロッピーケーブルで最大 2 つのフロッピードライブを接続することができます。リボンケーブルの長い方にある 1 つのコネクタをボードの FDC1 に接続し、もう片方の 2 つのコネクタをフロッピーディスクドライブに接続してください。通常、システムに必要なフロッピーディスクドライブは 1 つだけです。

**注:** リボンケーブルの赤い線は FDC1 ポートとフロッピーコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

各 IDE ポートコネクタには、40 ピン、80 コンダクタ、3 コネクタの Ultra ATA/66 リボンケーブルを使って Ultra ATA/100 モードで最大 2 つの IDE ドライブを接続することができます。

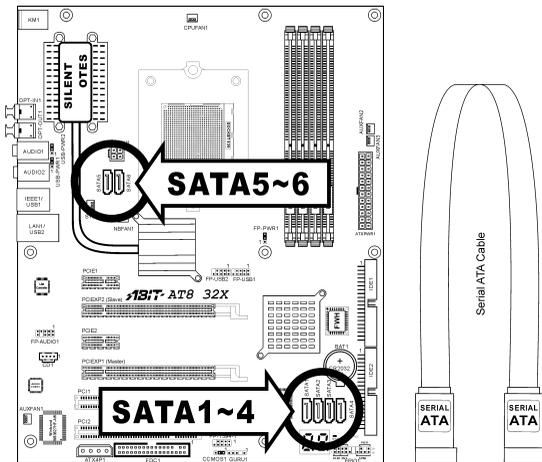
リボンケーブルの長い方の端 (青いコネクタ) をこのボードの IDE ポートに接続し、短い方の端に付いた 2 つのコネクタ (灰色と黒のコネクタ) をハードドライブのコネクタに接続してください。



**注:** リボンケーブルで 2 つのドライブを接続する前に、"Master" と "Slave" 関係を設定してください。リボンケーブルの赤い線は IDE ポートとハードドライブコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

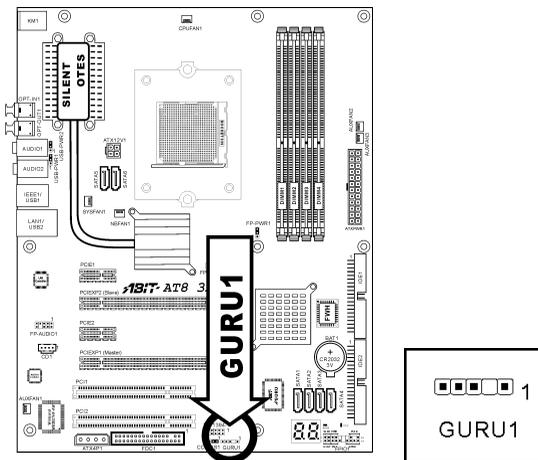
**(8). シリアルATAコネクタ**

これらのコネクタは、Serial ATA ケーブル経由で各チャンネル毎に1つの Serial ATA デバイスを接続するために用意されています。



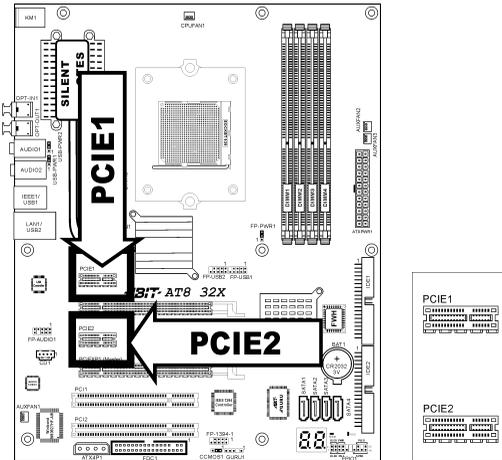
**(9). GURUクロック接続ヘッダ**

ヘッダはABITの専用GURUクロック接続ように保留されています。



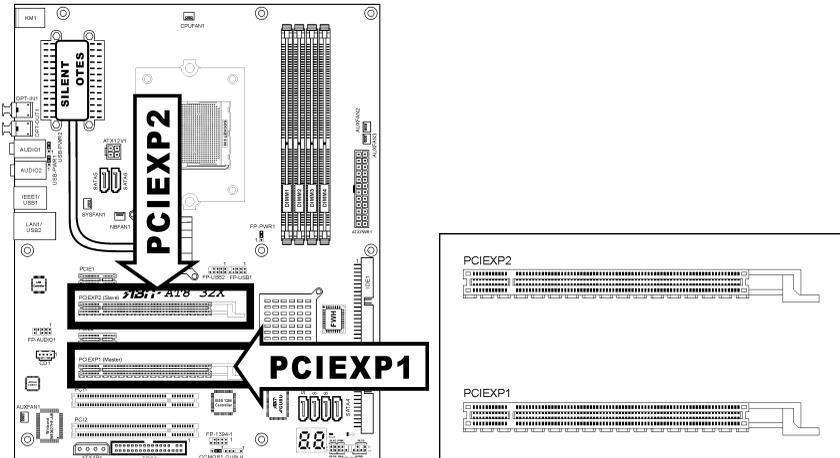
### (10). PCI Express x1 スロット

これらのスロットは、次世代の I/O アーキテクチャ接続用です。



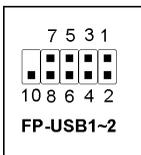
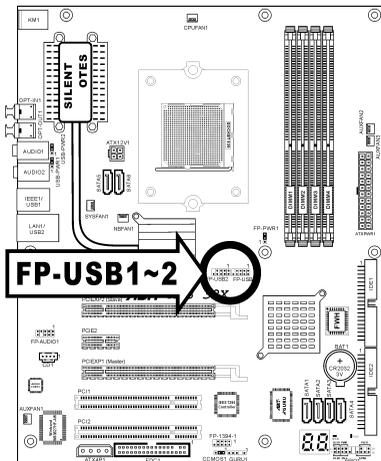
### (11). PCI Express x16 スロット

このスロットは、次世代のグラフィック・アーキテクチャ接続用です。



**(12). 追加 USB ポートヘッダ**

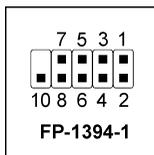
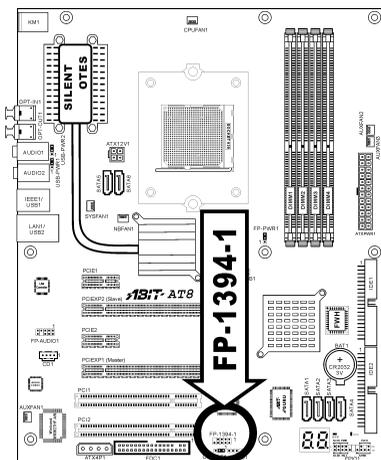
これらのヘッダはそれぞれ、USB 2.0 仕様に対して設計された USB ケーブルを通して、2 つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。



ピン	割り当て	ピン	割り当て
1	VCC	2	VCC
3	Data0 -	4	Data1 -
5	Data0 +	6	Data1 +
7	アース	8	アース
9	NC	10	NC

**(13). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ**

これらのヘッダはそれぞれ、延長ケーブルとブラケットを通して、1 つの追加 IEEE1394 ポート接続を提供します。

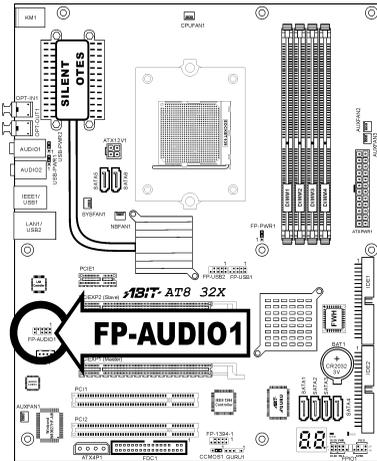


ピン	割り当て	ピン	割り当て
1	TPA0 +	2	TPA0 -
3	アース	4	アース
5	TPB0 +	6	TPB0 -
7	+12V	8	+12V
9	NC	10	アース

#### (14). 前面パネルのオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルでのオーディオコネクタに接続を提供します。

- 前面パネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンパを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルで前面パネルに接続します。
- 背面パネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを抜き、ピン 5-6、およびピン 9-10 のジャンパを元に戻します（デフォルト設定）。



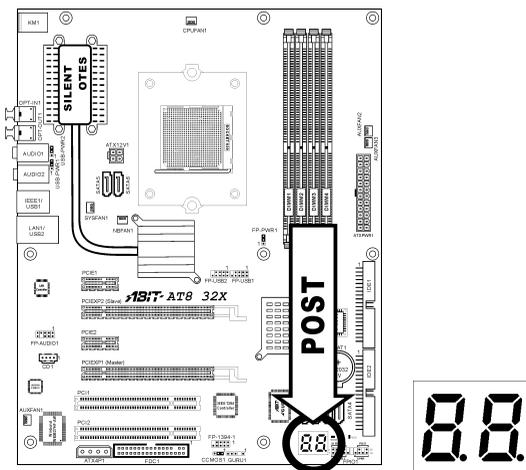
	ピン	割り当て	ピン	割り当て
<p>FP-AUDIO1</p>	1	MIC2 L	2	AGND
	3	MIC2 R	4	AVCC
	5	FRO-R	6	MIC2_JD
	7	F_IO_SEN	8	NC
	9	FRO-L	10	LINE2_JD

### (15). POST コードディスプレイ

これは、“POST”コードを表示するための LED デバイスです。POST は Power On Self Test の頭字語です。コンピュータは、電源をオンにされるたびに POST アクションを実行します。POST 処理は BIOS によってコントロールされます。コンピュータの主コンポーネントと周辺機器の状態を検出するために使用されます。各 POST コードは、前もって BIOS によって検出された異なるチェックポイントに対応しています。例えば、「メモリ存在テスト」は重要なチェックポイントで、その POST コードは“C1”です。BIOS は POST アイテムを実行しているとき、対応する POST コードをアドレス 80h に書き込みます。POST がパスすると、BIOS は次の POST アイテムを処理し、次の POST コードをアドレス 80h に書き込みます。POST が失敗すると、我々はアドレス 80h で POST コードをチェックしどこに問題があるのかを探し出します。

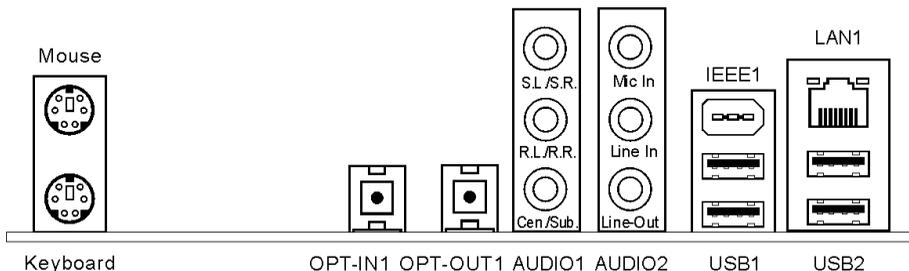
この LED デバイスは、ABIT コンピュータが独占的に開発した“uGuru”チップセットである、AC2005 の“POST”コードも表示します。

**注意:** この小数点は、AC2005 POST アクションを実行しているときに点灯します。



AWARD および AC2005 POST コード定義の付録をご覧ください。

## (16). 背面パネルの接続



- **Mouse** : PS/2 マウスに接続します。
- **Keyboard** : PS/2 キーボードに接続します。
- **OPT-IN1** : このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF イン接続を提供します。  
**OPT-OUT1** : このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF アウト接続を提供します。
- **AUDIO1** :  
**S.L./S.R. (サラウンド左/サラウンド右)** : サラウンド左とサラウンド右チャンネルを 7.1 チャンネルオーディオシステムに接続してください。  
**R.L./R.R. (背面左 / 背面右)** : 7.1 チャンネルのオーディオシステムの背面左および背面右チャンネルに接続します。  
**Cen./Sub. (センター / サブウーファ)** : 7.1 チャンネルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャンネルに接続します。
- **AUDIO2** :  
**Mic-In** : 外部マイクからプラグに接続します。  
**Line-In** : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。  
**Line-Out** : 7.1 チャンネルまたは通常の 2 チャンネルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。
- **IEEE1** : IEEE1394 プロトコルのデバイスに接続します。
- **LAN1** : 構内通信網 (LAN) に接続します。
- **USB1/USB2** : スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

## 第3章 BIOS について

このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときだけに、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

### PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの2つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

<Del>キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ μGuru Utility</li> <li>▶ Standard CMOS Features</li> <li>▶ Advanced BIOS Features</li> <li>▶ Advanced Chipset Features</li> <li>▶ Integrated Peripherals</li> <li>▶ Power Management Setup</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PnP/PCI Configurations</li> <li>Load Fail-Safe Defaults</li> <li>Load Optimized Defaults</li> <li>Set Password</li> <li>Save &amp; Exit Setup</li> <li>Exit Without Saving</li> </ul>
Esc : Quit F10 : Save & Exit Setup F6 : Save PROFILE to BIOS	↑ ↓ → ← : Select Item (RD580-M1575-6A7K9A1AC-00) F7 : Load PROFILE from BIOS
OC Guru & ABIT EQ ...	

**注：**システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

BIOS セットアップメインメニューには、複数のオプションが表示されます。本章の以下のページでこれらのオプションをステップバイステップで説明しますが、ここで使用する機能キーについて、まず簡単に説明いたします。

---

**Esc:**

このボタンを押すと、BIOS セットアップを終了します。

---

↑ ↓ ← →:

メインメニューでこれらのボタンを押すと、確認または修正するオプションを選択できます。

---

**F10:**

BIOS パラメータのセットアップが完了したら、このボタンを押してこれらのパラメータを保存し、BIOS セットアップメニューを終了します。

---

**F6:**

現在の設定をプロファイルとして保存します。

---

**F7:**

以前保存したプロファイルをロードします。

---

### 3-1. μGuru Utility

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。

#### OC Guru:

μGuru Utility V1.00		
OC Guru	ABIT EQ	
AMD Athlon(tm) 64 Processor 3500+		Item Help
Frequency: 2200MHz		
CPU Operating Speed	2200 (200)	
X - Multiplier Factor	x11.0	
X - External Clock	AUTO	
- Estimated New CPU Clock	2200MHz	
X - PCIE Clock	100	
Voltages Control	Auto Detect	
X - CPU Voltage	1.4000V	
X - NB 1.8V Voltage	1.80 V	
X - DDR Voltage	2.60 V	
X - HyperTransport Voltage	1.20 V	
X - NB 1.2V Voltage	1.20 V	
X - DDR Reference Voltage	Default	
▶ Power Cycle Statistics	Press Enter	
↑ ↓ → ←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value		F10: Save ESC: Exit

#### AMD Athlon(tm) 64 Processor 3500+

このアイテムは CPU のモデル名。

#### Frequency:

このアイテムは CPU の内部クロック速度を表示します。

#### CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

**User Define:**

**警告:** クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのために、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

**\* Multiplier Factor:**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を表示します。

**\* External Clock:**

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

**\* Estimated New CPU Clock**

この項目は、次にシステムを開始したときの新しい CPU クロックを概算します。この値は、“Multiplier Factor (乗数)”および“External Clock (外部クロック)”の値により決定されます。

**\* PCIE Clock**

このアイテムは PCI Express の周波数を選択します。

**Voltage Control:**

このオプションは、デフォルトの電圧とユーザー定義した電圧を切り替えます。現在の電圧設定が検出できなかったり正しくない場合の除き、この設定はデフォルトのままにしておいてください。オプション“User Define” (ユーザー定義) は、次の電圧を手動で選択できます。

**\* CPU Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

**\* NB 1.8V Voltage:**

この項目は、NB 1.8V 電圧を選択します。

**\* DDR Voltage:**

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

**\* HyperTransport Voltage:**

このアイテムは LDT バスを電圧を選択します。

**\* NB 1.2V Voltage:**

この項目は、NB 1.2V 電圧を選択します。

\* **DDR Reference Voltage:**

このアイテムは DDR メモリリファレンスの電圧を選択します。

**Power Cycle Statistics:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

μGuru Utility V1.00	
OC Guru	ABIT EQ
<b>Power Cycle Statistics</b>	<b>Item Help</b>
PC Up Time	0 Hours
PC Up Time Total	107 Hours
PC Power Cycles	532 Cycles
PC Reset Button Cycles	281 Cycles
AC Power On Total Time	288 Hours
AC Power Cycles	228 Cycles
↑ ↓ → ←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit	

これらのアイテムは、各要素のパワー・サイクル統計を表示します。

**ABIT EQ:**

<→>キーを使って、OC Guru セットアップ・メニューから ABIT EQ セットアップ・メニューに切り替えます。

μGuru Utility V1.00	
OC Guru	ABIT EQ
ABIT EQ Beep Control	Enabled
▶ Temperature Monitoring	Press Enter
▶ Voltage Monitoring	Press Enter
▶ Fan Speed Monitoring	Press Enter
▶ FanEQ Control	Press Enter
↑ ↓ → ←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit	

**ABIT EQ Beep Control:**

このアイテムで、ABIT EQ 警告音コントロール機能を有効にしたり無効にしたりします。

## ☞ Temperature Monitoring:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

μGuru Utility V1.00					
OC Guru	ABIT EQ				
Temperature Monitoring					
	Reading	Shutdown Enable	Shutdown Temp.	Beep Enable	Beep Temp.
(*) CPU Temperature	41°C/105°F	(*)	85°/185°F	(*)	75°C/167°F
(*) NB Temperature	48°C/114°F	( )	85°C/185°F	(*)	75°C/167°F
(*) SYS Temperature	31°C/87°F	( )	65°C/149°F	(*)	55°C/131°F
(*) PWM Temperature	31°C/87°F	( )	90°C/194°F	(*)	80°C/176°F

↑ ↓ → ←: Move Space: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit

### CPU Temperature/NB Temperature/SYS Temperature/PWM Temperature:

これらのアイテムはCPU、システム、電源装置の温度を表示します。

#### \* Shutdown Enable:

<スペース> キーを使って、システム終了機能を有効にします。CPU/NB/SYS/PWM の温度が終了温度限度を超えると、システムは自動的に終了します。

#### \* Shutdown Temp.:

このアイテムは、システムの過熱を防ぐために、システムを自動的に終了する温度を設定します。

#### \* Beep Enable:

<スペース> キーを使って、警告音機能を有効にします。システムが CPU/System/PWM の温度が警告音温度限度を超えたことを検出すると、警告音が鳴ります。

#### \* Beep Temp.:

このアイテムは、警告温度限度を選択します。

**注:** 終了温度は、警告温度の上に設定しなくてはなりません。

## ⤵ Voltage Monitoring:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

μGuru Utility V1.00					
OC Guru	ABIT EQ				
Voltage Monitoring					
	Reading	Shutdown	Beep	High	Low
		Enable	Enable	Limit	Limit
(*)CPU Core Voltage	1.32 V	(*)	(*)	1.6 V	0 V
(*)DDR Voltage	2.67 V	( )	(*)	3.10 V	2.10 V
(*)DDR VTT Voltage	1.32 V	( )	(*)	1.55 V	1.05 V
(*)HyperTransport Voltage	1.20 V	( )	(*)	1.45 V	0.95 V
(*)CPU VDDA 2.5V Voltage	2.65 V	( )	(*)	1.80 V	1.20 V
(*)NB 1.8V Voltage	1.84 V	( )	(*)	2.15 V	1.45 V
(*)NB 1.8V Dual Voltage	1.87 V	( )	(*)	3.00 V	2.00 V
(*)NB 1.2V Voltage	1.19 V	( )	(*)	0.00 V	0.00 V
(*)PCIE 1.2V Voltage	1.20 V	( )	(*)	0.00 V	0.00 V
(*)ATX +12V (24-Pin Connector)	12.07 V	( )	(*)	14.40V	9.60 V
(*)ATX +12V (4-Pin Connector)	12.13 V	( )	(*)	14.40V	9.60 V
(*)ATX +5V	5.14 V	( )	(*)	6.00 V	4.00 V
(*)ATX +3.3V	3.41 V	( )	(*)	3.95 V	2.65 V
(*)ATX 5VSB	5.14 V	( )	(*)	6.00 V	4.00 V

↑ ↓ → ←:Move Space:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit

### All Voltages:

これらのアイテムは各部分の電圧を表示します。

#### \* Shutdown Enable:

<スペース> キーを使って、システム終了機能を有効にします。対応する要素のボルトが限度より高かったり低かったりする場合は、システムは自動的に終了します。

#### \* Beep Enable:

<スペース> キーを使って、警告音機能を有効にします。対応する要素のボルトが限度より高かったり低かったりする場合は、警告音が鳴ります。

#### \* High/Low Limit:

これらのアイテムは、ボルトの上限と下限を設定します。

**注：**高い限界の値は、低い限界の値より高く設定する必要があります。

### ↳ Fan Speed Monitoring:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

µGuru Utility V1.00				
OC Guru	ABIT EQ			
Fan Speed Monitoring				
	Reading	Shutdown Enable	Beep Enable	Low Limit
(*)CPU FAN Speed	4800 RPM	(*)	(*)	300 RPM
( )NB FAN Speed	N/A	( )	( )	300 RPM
( )SYS FAN Speed	N/A	( )	( )	300 RPM
( )AUX1 FAN Speed	N/A	( )	( )	300 RPM
( )AUX2 FAN Speed	N/A	( )	( )	300 RPM
( )AUX3 FAN Speed	N/A	( )	( )	300 RPM

↑ ↓ → ←:Move Space:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit

#### CPU/NB/SYS/AUX1/AUX2/AUX3 FAN Speed:

これらのアイテムは、CPU、NB、SYS、AUX1、AUX2、AUX3 FAN ヘッダに接続されているファン速度を表示します。

##### \* Shutdown Enable:

<スペース> キーを使って、システム終了機能を有効にします。システムが、ファン速度が下限値よりも低いことを検出すると、システムは自動的に終了します。

##### \* Beep Enable:

<スペース> キーを使って、警告音機能を有効にします。ファン速度が下限値よりも低い場合は、警告音が鳴ります。

##### \* Low Limit:

これらのアイテムは、ファン速度の下限を設定します。

**注:** 3 ピンプラグを搭載したファンのみが、速度モニタリング機能を提供します。

## ☞ FanEQ Control:

µGuru Utility V1.00			
OC Guru	ABIT EQ		
	FanEQ Control		
▶ CPU	FanEQ Control	Press Enter	Item Help
▶ NB	FanEQ Control	Press Enter	
▶ SYS	FanEQ Control	Press Enter	
▶ AUX1	FanEQ Control	Press Enter	
▶ AUX2	FanEQ Control	Press Enter	
▶ AUX3	FanEQ Control	Press Enter	
↑ ↓ → ←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value			F10:Save ESC:Exit

### CPU/NB/SYS/AUX1/AUX2/AUX3 FanEQ Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

µGuru Utility V1.00			
OC Guru	ABIT EQ		
	CPU FanEQ Control		
CPU FanEQ Control	Enabled		Item Help
-Reference Temperature	CPU Temperature		
-Control Temperature High	65° C/149° F		
-Control Temperature Low	35° C/95° F		
-DC Fan Voltage High	12.0 V		
-DC Fan Voltage Low	8.0 V		
↑ ↓ → ←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value			F10:Save ESC:Exit

[有効] に設定されていると、温度と電圧の高/低制限の組み合わせを設定することで CPU/NB/System/OTES1/OTES2/AUX ファン速度を調整することができるようになります。

#### \* Reference Temperature:

これらのアイテムは、CPU/NB/SYS/PWM システムの温度を表示します。

#### \* Control Temperature High/Low:

ファン速度をコントロールするために温度の最低限度と最高限度値を設定します。

#### \* DC Fan Voltage High/Low:

ファンに提供する最低電圧と最高電圧値を設定します。

**注：**高い限界の値は、低い限界の値より高く設定する必要があります。

## 3-2. Standard CMOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Tue. Feb. 14 2006	Item Help
Time (hh:mm:ss)	17 : 10 : 27	
▶ IDE Channel 1 Master	None	
▶ IDE Channel 1 Slave	None	
▶ IDE Channel 2 Master	None	
▶ IDE Channel 2 Slave	None	
▶ IDE Channel 3 Master	None	
▶ IDE Channel 3 Slave	None	
▶ IDE Channel 4 Master	None	
▶ IDE Channel 4 Slave	None	
Drive A	1.44M, 3.5 in.	
Floppy 3 Mode Support	Disabled	
Halt On	All, But Keyboard	
Base Memory	640K	
Extended Memory	1046520K	
Total Memory	1047552K	
↑ ↓ → ← : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

### Date (mm:dd:yy):

このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

### Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

## ☞ IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3 Master/Slave, IDE Channel 4 Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
IDE Channel 1 Master		
IDE HDD Auto-Detection	Press Enter	Item Help
IDE Channel 1 Master	Auto	
Access Mode	Auto	
Capacity	0 MB	
Cylinder	0	
Head	0	
Precomp	0	
Landing Zone	0	
Sector	0	
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

### IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

### IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3 Master/Slave, IDE Channel 4 Master/Slave:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

### Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておく、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

### Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

---

**Cylinder:**

このアイテムはシリンダの数を構成します。

---

**Head:**

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

---

**Precomp:**

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

---

**Landing Zone:**

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

---

**Sector:**

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

☞ **Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります：**

---

**Drive A:**

このアイテムは取り付けたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

---

**Floppy 3 Mode Support:**

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

---

**Halt On:**

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

**[All Errors]:** システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

**[No Errors]:** システムブートは、エラーを検出すると停止します。

**[All, But Keyboard]:** システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

**[All, But Diskette]:** システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

**[All, But Disk/Key]:** システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

---

---

**Base Memory:**

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

---

**Extended Memory:**

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

---

**Total Memory:**

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

### 3-3. Advanced BIOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Advanced BIOS Features		
Quick Power on Self Test	Enabled	Item Help
▶ Hard Disk Boot Priority	Press Enter	
▶ CD-ROM Boot Priority	Press Enter	
First Boot Device	Floppy	
Second Boot Device	Hard Disk	
Third Boot Device	IDE CDROM	
Boot Other Device	Enabled	
Boot Up Floppy Seek	Disabled	
Boot Up NumLock Status	On	
Security Option	Setup	
MPS Version Ctrl For OS	1.4	
Delay IDE Initial(Secc)	0	
Full Screen Logo Show	Enabled	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

#### Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOSはPOSTの間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

#### Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用を選択することができます。

このアイテムは、1次/2次/3次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

#### CD-ROM Boot Priority:

このアイテムはCD-ROMデバイスの起動優先順位を選択します。

**注意:** このアイテムは、コンピュータにCD-ROMデバイスがインストールされている場合のみ表示されます。

#### First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第1ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第2ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第3ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第1、第2、第3ドライブを選択します。BIOSは選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の3つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

---

**Boot Up Floppy Seek:**

次の 2 つのオプション、Disabled(使用する)または Enabled(使用する)が設定できます。デフォルトは *Enabled(使用しない)* です。デフォルトの設定は *Enabled* です。この項目は、BIOS が、上記の First,Second,Third の 3 つのブート機器以外のデバイスからブートすることを設定します。「無効」に設定しますと、上記で設定した 3 つの機器からのみブートします。

---

**Boot Up NumLock Status:**

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On] : 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off] : 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

---

**Security Option:**

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき - システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

セキュリティ機能を無効にするには、メインメニューで **Set Password** を選択します。パスワードを入力するように要求されても何も入力せずに、<Enter>キーを押してください。セキュリティを解除するとシステムがブートし、自由に BIOS のセットアップメニューに自由にアクセスできるようになります。

**注:** パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

---

**MPS Version Ctrl For OS:**

この項目は、このマザーボードが使用する MPS (多重プロセッサ仕様) のバージョンを指定します。このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

---

**Delay IDE Initial(Secs):**

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

---

**Full Screen LOGO Show:**

この項目は追い出すとき全画面のロゴを示すことを定めます。

### 3-4. Advanced Chipset Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Advanced Chipset Features		
▶ DRAM Configuration	Press Enter	Item Help
▶ LDT & PCI Bus Control	Press Enter	
System BIOS Cacheable	Enabled	
↑ ↓ → ← : Move Enter: Select +/- /PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

#### ↳ DRAM Configuration:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility DRAM Configuration		
DRAM Timing Selectable	Auto	Item Help
X - DRAM Clock	Auto	
X - CAS Latency Time	Auto	
X - Row Cycle Time	Auto	
X - Row Refresh Cycle Time	Auto	
X - Min RAS# Active Time	Auto	
X - RAS# to CAS# Delay	Auto	
X - RAS# Precharge Time	Auto	
X - RAS# to RAS# Delay	Auto	
X - Write Recovery Time	Auto	
X - Write to Read Delay	Auto	
X - Read to Write Delay	Auto	
X - DRAM Command Rate	Auto	
X - Bank Interleaving	Enabled	
X - Burst Length	4 beats	
32 bit Dram Memory Hole	Auto	
MTRR Mapping Mode	Continuous	
DRAM ECC Feature Control	Non-ECC	
X - ECC Memory Interlock	At Least One	
X - ECC MCE Enable	Disabled	
X - Chip-Kill Mode Enable	Disabled	
X - ECC Redirection	Disabled	
X - DRAM Scrub Rate	Disabled	
X - L2 Cache Scrub Rate	Disabled	
X - DCache Scrub Rate	Disabled	
↑ ↓ → ← : Move Enter: Select +/- /PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

---

**DRAM Timing Selectable:**

このアイテムはDRAMタイミングモードを選択します。“By SPD” に設定すると、BIOSはDRAMモジュール SPD データを読み取り、自動的に保存された値に設定します。このアイテムは既定の “Auto” 設定にしておいてください。

**\* DRAM Clock:**

このアイテムは、DRAM モジュールの DRAM クロックを設定します。DRAM モジュールが設定したクロックをサポートしないと、システムは不安定になるか、起動できなくなります。

[SPD による]に設定すると、BIOS は DRAM モジュールの SPD データを読み込んで、格納されている値によって DRAM クロックを自動的に設定します。

**\* CAS Latency Time:**

SDRAM 仕様に従い、SDRAM CAS (カラムアドレスストロープ) レイテンシータイムを選択することができます。

**\* Row Cycle Time:**

このアイテムは、RAS# アクティブ対 RAS#アクティブ時間、または同じバンクの自動リフレッシュ時間を指定します。

**\* Row Refresh Cycle Time:**

このアイテムは、自動リフレッシュアクティブ対 RAS#アクティブ時間または RAS#自動リフレッシュ時間を指定します。

**\* Min. RAS# Active Time:**

このアイテムは、最小の RAS#アクティブ時間を指定します。

**\* RAS# to CAS# Delay:**

このアイテムは、同じ時間に対する RAS#アクティブ対 CAS#読み書き遅延時間を指定します。

**\* RAS# Precharge Time:**

このアイテムは、RAS#プリチャージ時間を指定します。

**\* RAS# to RAS# Delay:**

このアイテムは、異なるバンクの RAS# アクティブ対 RAS#アクティブ遅延時間を指定します。

**\* Write Recovery Time:**

このアイテムは、最後に書き込んだデータが DRAM により安全に登録されてから測定された時間を指定します。

**\* Write to Read Delay:**

このアイテムは、次の読み込みコマンドの立ち上がりに対して最後の非マスクデータストロープに続く立ち上がりから測定された時間を指定します。

**\* Read to Write Delay:**

このアイテムは読み込みから書き込みの遅延を指定します。

---

**\* DRAM Command Rate:**

ホスト（ノースブリッジ）が希望するメモリアドレスを配置するとき、コマンドの待ち状態を処理します。

**\* Bank Interleaving:**

SDRAM モジュール構造によって、“4 Way” 設定は最高の性能を提供することができます。間違った設定を選択すると、コンピュータシステムは安定した方法で実行されません。SDRAM モジュールの詳細については、SDRAM モジュールのメーカーにお問合せください。

**\* Burst Length**

DDR SDRAM モジュールはバーストモードを提供します。バーストモードとは、2、4 または 8 ロケーションのプログラム可能な READ（読み込み）または WRITE（書き込み）バースト長に対する自動プリチャージ機能を意味します。

これは、バースト長を 8 に設定すると、プリチャージするためにアドレスバスがサイクル当り 8 バイトにアクセスすることを意味します。

---

**32 bit Dram Memory Hole:**

このアイテムは 32 ビット DRAM メモリホールをリマップする方法を選択します。このアイテムは既定の “Auto” 設定にしておいてください。

---

**MTRR mapping mode**

このアイテムは MTRR マッピングモードを選択します。MTRR (Memory-Type and Range Registers) はプロセッサのメモリ領域のアクセスとキャッシュ能力を制御します。

---

**DRAM ECC Feature Control**

ECC 機能対応の DRAM をインストールした場合、[ECC] オプションを指定して、下記のサブ項目を設定できます。

- \* **ECC Memory Interlock**
- \* **ECC MCE Enable**
- \* **Chip-Kill Mode Enable**
- \* **ECC Redirection**
- \* **DRAM Scrub Rate**
- \* **L2 Cache Scrub Rate**
- \* **DCache Scrub Rate**

↩ **Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:**

↩ **LDT & PCI Bus Control:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
LDT & PCI Bus Control		
LDT Configuration	Enabled	Item Help
Upstream LDT Bus Width	16 bit	
Downstream LDT Bus Width	16 bit	
LDT Bus Frequency	Auto	
PCIE Reset Delay	Disabled	
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

#### LDT Configuration:

この項目は、LDT 設定機能を有効/無効にします。

#### Upstream LDT Bus Width:

この項目は、アップストリーム LDT バス幅の値を設定します。

#### Downstream LDT Bus Width:

この項目は、ダウンストリーム LDT バス幅の値を設定します。

#### LDT Bus Frequency:

M このアイテムは、LDT バス幅を選択します。

#### PCIE Reset Delay:

この項目は、PCIE リセット/ディレイ機能を有効/無効にします。

↩ **Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:**

#### System BIOS Cacheable:

Disabled (使用しない) か Enabled (使用する) のどちらかに設定します。Enabled に設定すると、L2 キャッシュを使用するので、システム BIOS の実行速度が向上します。

### 3-5. Integrated Peripherals

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Integrated Peripherals		
▶ OnChip IDE Device	Press Enter	Item Help
▶ OnChip PCI Device	Press Enter	
▶ Onboard PCI Device	Press Enter	
Onboard FDC Controller	Enabled	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

#### ☞ OnChip IDE Device

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility OnChip IDE Device		
OnChip IDE-1 Controller	Enabled	Item Help
OnChip IDE-2 Controller	Enabled	
OnChip SATA Controller	Enabled	
- SATA Mode Selected	IDE Mode	
- SATA ROM	Enabled	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

#### OnChip IDE-1 Controller/ OnChip IDE-2 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

#### OnChip SATA Controller:

このアイテムは、オンチップ SATA コントローラの有効/無効を切り替えます。

**SATA Mode Selected:**

この項目では SATA モードを指定します。SATA コネクタと設定の関係は下表をご参照ください。

**[IDE Mode]:** これは SATA 装置を IDE モードで使用するデフォルト設定です。

**[RAID Mode]:** SATA 装置を RAID モードで使用するには、このモードを選んでください。

**[AHCI Mode]:** Microsoft 製 64 ビットオペレーティングシステムを使用時にはこのモードを選んでください。

SATA コネクタ	IDE モード/ AHCI モード	RAID モード
SATA1	チャンネル 3 マスタ	チャンネル 0 マスタ
SATA2	チャンネル 4 マスタ	チャンネル 1 マスタ
SATA3	チャンネル 3 スレーブ	チャンネル 2 マスタ
SATA4	チャンネル 4 スレーブ	チャンネル 3 マスタ

**SATA ROM**

この項目では、オンチップシリアル ATA RAID のブート ROM を使用してシステムを起動することができます。

**OnChip PCI Device:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
OnChip PCI Device		
OnChip Audio Controller	Enabled	Item Help
OnChip USB Controller	Enabled	
- USB 2.0 Controller	Enabled	
- USB Keyboard Support via	OS	
- USB Mouse Support via	OS	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

**OnChip Audio Controller:**

このアイテムはオーディオコントローラを使用できるようにします。

**OnChip USB Controller:**

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。このアイテムを Disable (使用しない) に設定すると、“USB 2.0 Controller”、“USB Keyboard Support via”

および“USB Mouse Support via”アイテムは *Integrated Peripherals* (統合周辺機器) メニューで選択できません。

※ **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

※ **USB Keyboard Support via:**

このアイテムは、DOS 環境で USB キーボードを使用するために[BIOS]を、OS 環境で[OS]を選択します。

※ **USB Mouse Support via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[BIOS]を、または、または OS 環境では[OS]を選択することができます。

🔍 **Onboard PCI Device:**

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Onboard PCI Device		
Onboard LAN Controller	Enabled	Item Help
- LAN Boot ROM	Disabled	
Onboard SATA Controller	Enabled	
- SATA Option ROM	Enabled	
- RAID Mode	Disabled	
Onboard 1394 Controller	Enabled	
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

**Onboard LAN Controller:**

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

※ **LAN Boot ROM:**

このアイテムにより、(ディスクドライブの代わりに) ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

**Onboard SATA Controller:**

このオプションは、SATA コントローラを有効または無効にします。

※ **SATA Option ROM:**

この項目では、オンボードシリアル ATA RAID のブート ROM を使用してシステムを起動することができます。

※ **RAID Mode**

この項目でオンボード SATA コントローラの RAID モードのオン・オフを設定します。

---

**Onboard 1394 Controller:**

このオプションは、IEEE 1394 コントローラの有効/無効を切り替えます。

🔍 **Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:**

---

**Onboard FDC Controller:**

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。Enabled (使用する) または Disabled (使用しない) に設定できます。デフォルトは Enabled です。

### 3-6. Power Management Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Power Management Setup		
	S3(Suspend-to-RAM)	Item Help
ACPI Suspend Type	Enabled	
- Resume by USB from S3	Instant-Off	
Power Button Function	Disabled	
Wake Up by PME# of PCIE	Disabled	
Wake Up by PME# of PCI	Disabled	
Wake Up by Onboard LAN	Disabled	
Wake Up by Alarm	0	
X - Date(of Month) Alarm	0 : 0 : 0	
X - Time (hh:mm:ss) Alarm	Auto	
AMD K8 Cool'n'Quiet Control	BUTTON ONLY	
POWER ON Function	Enter	
X - KB Power ON Password	Ctrl-F1	
X - Hot Key Power ON	Power Off	
Restore on AC Power Loss		

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help  
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

#### ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(PowerOn-Suspend)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(Suspend-To-RAM)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

#### \* Resume by USB from S3:

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。Enabled (使用する) に設定すると、オンチップ USB に影響を与えるすべてのイベントは電源がダウンしたシステムを呼び起こします。これは、“ACPI サスペンドのタイプ” が [S3(STR)] に設定されているときのみ設定できます。

#### Power Button Function:

このアイテムは Delay 4 Sec か Instant-Off に指定できます。デフォルトは *Instant-Off* です。システムが作動中に電源ボタンを4秒以上押しつづけると、システムはソフトオフ (ソフトウェアによるパワーオフ) モードに変わります。これを電源ボタンオーバーライドと呼びます。

#### Wake Up by PME# of PCIE:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCIE カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCIE カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

---

**WakeUp by PME# of PCI:**

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

---

**Wake Up by Onboard LAN:**

[Enabled] に設定されていると、ウェイクアップ機能に対応した LAN カードを通して、ソフト・オフ状態の PC をリモートから起動させることができます。

---

**Wake Up by Alarm:**

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。Enabled (使用する) に設定すると、RTC (リアルタイムクロック) アラームがサスペンドモードからシステムを呼び起こす日と時間を設定できます。

**\* Date (of Month) Alarm/ Time (hh:mm:ss) Alarm:**

日付 (月) アラームと時間アラーム (hh:mm:ss) を設定することができます。発生するイベントはすべて、パワーダウンしたシステムを呼び起します。

---

**AMD K8 Cool 'n' Quiet Technology:**

このオプションは、AMD K8 cool and quiet 機能を有効にしたり無効にしたりします。

---

**Power On Function:**

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password]: パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、<Enter>を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、<Enter>を押します。

[Hot KEY]: <F1> から <F12>までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Left]: マウスの左ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Mouse Right]: マウスの右ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Any KEY]: キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[BUTTON ONLY]: 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98]: “Keyboard 98”互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

**\* KB Power On Password:**

<Enter>キーを押すと、希望するパスワードを入力することができます。入力が完了すると、設定を保存して BIOS 設定メニューを終了し、コンピュータシステムを再起動する必要があります。次にコンピュータをシャットダウンしたとき、電源ボタンを使用してコンピュータの電源をオンにすることはできません。コンピュータの電源をオンにするには、パスワードを入力する必要があります。

---

**\* Hot Key Power On:**

次の 15 のオプションが指定できます: Ctrl+F1 ~ Ctrl+F12、Power (電源)、Wake (呼び起こし)、Any Key (任意のキー)。デフォルトは *Ctrl+F1* です。希望するホットキーを選択して、コンピュータの電源をオンにすることができます。

---

**Restore on AC Power Loss:**

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

**[Power Off]:** AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

**[Power On]:** AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

**[Last State]:** AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。

### 3-7. PnP/PCI Configurations

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility PnP/PCI Configurations		
Init Display First	PCI Slot	Item Help
Resources Controlled By	Auto	
IRQ Resources	Press Enter	
PCI/VGA Palette Snoop	Disabled	
PCI Latency Timer (CLK)	32	
PIRQ_0 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_1 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_2 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_3 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_4 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_5 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_6 Use IRQ No.	Auto	
PIRQ_7 Use IRQ No.	Auto	
** PCI Express relative items **		
Maximum Payload Size	4096	
↑ ↓ → ← : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

#### Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

[PCIEx]: システムが起動するとき、まず PCIE を初期化します。

#### Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

[Auto]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

### ☞ IRQ Resources:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
IRQ Resources		
		Item Help
IRQ-4 assigned to	PCI Device	
IRQ-5 assigned to	PCI Device	
IRQ-7 assigned to	PCI Device	
IRQ-10 assigned to	PCI Device	
IRQ-11 assigned to	PCI Device	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help  
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

### ☞ PnP/PCI Configurations Setup Menu に戻ります:

#### PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

**[Enabled]:** MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

**[Disabled]:** MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

#### PCI Latency Timer(CLK):

0 から 255 までの DEC (10 進法) 番号が設定できます。デフォルトの設定は 32 です。このアイテムにより、PCI レイテンシークロック遅延時間を設定することができます。つまり、遅延させたクロック数を設定できることとなります。

#### PIRQ\_0 Use IRQ No. ~ PIRQ 7 Use IRQ No.:

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

#### Maximum Payload Size:

このアイテムは、PCI Express デバイスの最大 TLP ペイロードサイズを設定します。

### **3-8. Load Fail-Safe Defaults**

---

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

### **3-9. Load Optimized Defaults**

---

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

### **3-10. Set Password**

---

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

### **3-11. Save & Exit Setup**

---

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

### **3-12. Exit Without Saving**

---

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

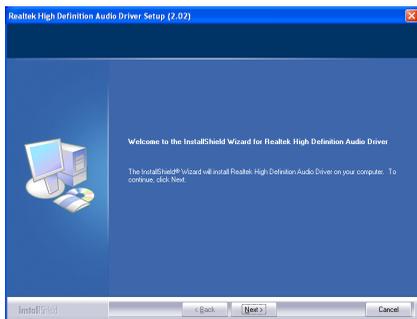


## 付録 A. オーディオドライバのインストール

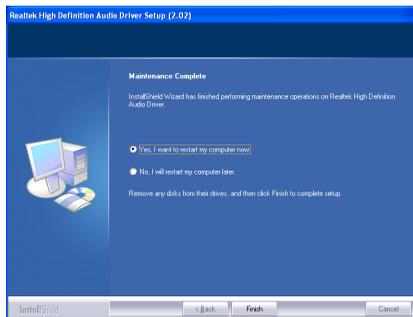
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [Drivers] タブに移動します。[Audio Driver] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [Next] をクリックします。



2. [Yes, I want to restart my computer now.] を選択されるようお勧めします。[Finish] をクリックしてインストールを終了します。



## 付録 B. LAN ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [Drivers] タブに移動します。[Realtek LAN Driver] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [Next] をクリックします。



2. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。



## 付録 C. ULi1575 SATA RAID ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [Drivers] タブに移動します。[ULi1575 SATA RAID Driver] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [Next] をクリックします。



2. [Next] をクリックします。



3. [Finish] をクリックします。



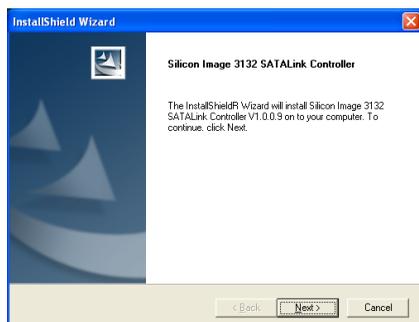
4. 「Yes, I want to restart my computer now.」を選択されるようお勧めします。[OK]をクリックしてインストールを終了します。

## 付録 D. Sil3132 SATA ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [Drivers] タブに移動します。[Sil3132 SATA Driver] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [Next] をクリックします。



2. [Next] をクリックします。

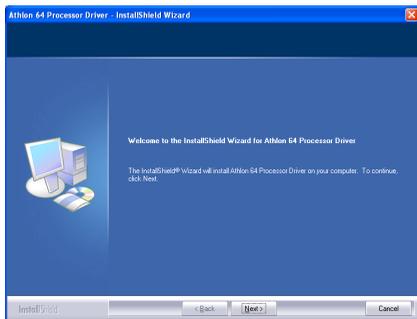


## 付録 E. Cool 'n' Quiet ドライバのインストール

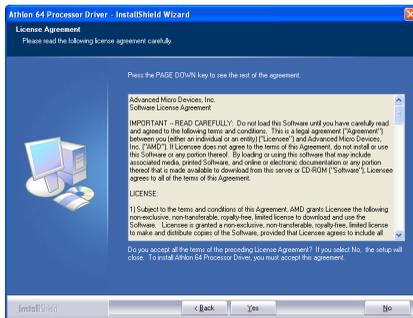
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [Drivers] タブに移動します。[Cool 'n' Quiet Driver] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



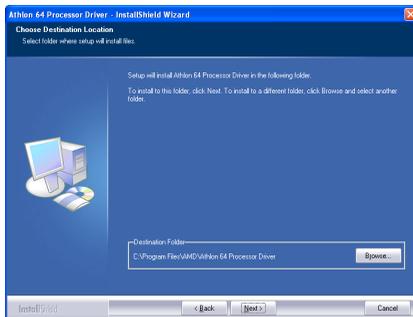
1. [Next] をクリックします。



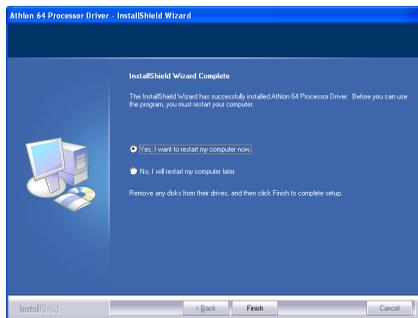
2. [Yes] をクリックします。



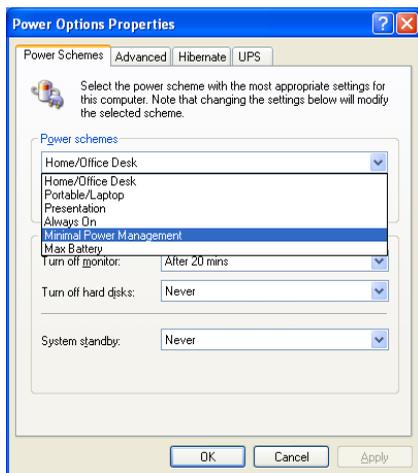
3. [Next] をクリックします。



4. [Next] をクリックします。



5. [Yes, I want to restart my computer now.] を選択されるようお勧めします。[Finish] をクリックしてインストールを終了します。



6. システム再起動後、コントロールパネルから [電源オプション] (Power Options) を選択し、[最小の電源管理] (Minimal Power Management) の電源設定を選択して Cool 'n' Quiet を有効にしてください。

**注：メモ:** Windows 2000 または ME システムについては、Windows 2000 および ME 用の Cool 'n' Quiet ソフトウェアがインストールされている場合、ADM Cool 'n' Quiet タブが [電源オプション] (Power Options) の下に表示されます。ここでは、Cool 'n' Quiet を有効にするために [自動モード] (Automatic Mode) に設定する必要があります。

---

## 付録 F. USB 2.0 ドライバのインストール

---

注：Windows XP または Windows 2000 における USB 2.0 ドライバのインストールは、マイクロソフト社のウェブサイトから最新の Service Pack をご利用ください。

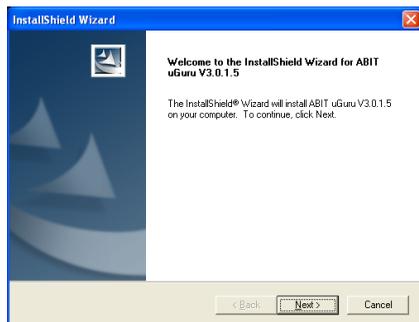


## 付録 G. ABIT μGuru ユーティリティのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のインストールメニューの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

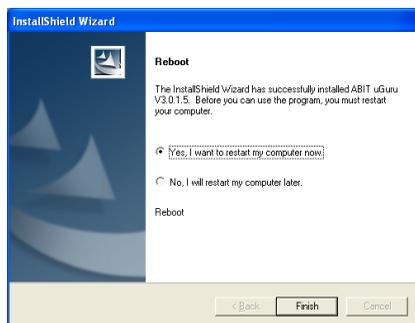
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT Utility] タブに移動します。[ABIT μGuru] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [Next] をクリックします。



2. [Next] をクリックします。



3. [Yes, I want to restart my computer now] を選択されるようお勧めします。[Finish] をクリックしてインストールを終了します。



## 付録 H. POST コード定義

### AWARD POST コード定義:

POST (16 進法)	説明
CF	CMOS R/W 機能のテスト
C0	チップセットの早期の初期化 -シャドウ RAM を無効にする。 -L2 キャッシュを無効にする (ソケット 7 以下)。 -ベーシックのチップセットレジスタをプログラム。
C1	メモリの検出 -DRAM のサイズ、種類、ECC の自動検出。 -L2 キャッシュの自動検出 (ソケット 7 以下)。
C3	圧縮された BIOS コードを DRAM に拡張。
C5	チップセットフックをコールして、BIOS を E000 および F000 シャドウ RAM にコピー。
01	物理アドレス 1000:0 に配置されている Xgroup コードを拡張。
03	初期 Superio_Early_Init スイッチ。
05	1. 画面を消す。 2. CMOS のエラーフラグを消去。
07	1. 8042 インタフェースを消去。 2. 8042 自己検査を初期化。
08	1. Winbond 977 シリーズの Super I/O チップに対して特殊なキーボードコントローラをテスト。 2. キーボードインタフェースを有効にする。
0A	1. PS/2 マウスインタフェースを無効にする (オプション)。 2. ポートおよびインタフェーススワップの後にくるキーボードとマウス用ポートの自動検出 (オプション) 3. Winbond 977 シリーズの Super I/O チップに対してキーボードをリセット。
0E	F000h セグメントシャドウをテストして、それが R/W 対応であるかないかを調べる。テストが失敗したら、スピーカがビーブ音を発し続ける。
10	フラッシュの種類を自動検出して、適切なフラッシュ R/W コードを F000 内のランタイム領域にロードしながら、ESCD および DMI をサポート。
12	ウォーキング 1 のアルゴリズムを使用して CMOS 回路内のインタフェースを検査。また、リアルタイムのクロック電源状態を設定して、次にオーバーライドをチェック。
14	チップセットのデフォルト値をチップセット内にプログラム。チップセットのデフォルト値は OEM 顧客により MODBINable。
16	Early_Init_Onboard_Generator が定義されている場合の初期オンボードクロックジェネレータ。POST 26 もご覧ください。

18	ブランド、SMIの種類 (Cyrix または Intel) および CPU レベル (586 または 686) を含む CPU 情報の検出。
1B	初期割り込みベクトル表。特に指定されていない場合、すべての H/W 割り込みは SPURIOUS_INT_HDLR & S/W 割り込みから SPURIOUS_soft_HDLR に送られます。
1D	初期 EARLY_PM_INIT スイッチ。
1F	キーボード行列をロード (ノートブックのプラットフォーム)。
21	HPM の初期化 (ノートブックのプラットフォーム)。
23	1. RTC 値の妥当性をチェック: 例: 5Ah の値は RTC 分の場合無効な値となります。 2. CMOS 設定を BIOS スタックにロード。CMOS チェックサムが失敗した場合、その代わりにデフォルト値を使用してください。
24	PCI & PnP を使用する場合、BIOS リソースを準備。ESCD が有効であれば、ESCD のレガシー情報を考慮に入れてください。
25	アーリーPCI 初期化: -PCI バス番号を列挙。 -メモリ & I/O リソースを割り当て -有効な VGA device & VGA BIOS を検索し、それを C000:0 に入れます。
26	1. Early_Init_Onboard_Generator がオンボードクロックジェネレータ初期化を定義されていない場合。それぞれのクロックリソースを無効にすると、PCI & DIMM スロットは空になります。 2. Init オンボード PWM 3. Init オンボード H/W モニタ装置
27	INT 09 バッファを初期化。
29	1. 0-640K メモリアドレスに対して CPU 内部 MTRR (P6 & PII) をプログラム。 2. Pentium クラス CPU に対して APIC を初期化。 3. CMOS セットアップによってアーリーチップセットをプログラム。例: オンボード IDE コントローラ。 4. CPU 速度を測定。
2B	ビデオ BIOS を呼び出し
2D	1. 2 バイト言語フォントを初期化 (オプション) 2. Award タイトル、CPU の種類、CPU 速度、フル画面ロゴなどの、オンスクリーンディスプレイに情報を表示。
33	Early_Reset_KB が無効になっている場合、キーボードをリセット。例: Winbond 977 シリーズ Super I/O チップ。POST 63 もご覧ください。
35	DMA チャンネル 0 をテスト。
37	DMA チャンネル 1 をテスト。
39	DMA ページレジスタをテスト。
3C	8254 をテスト。
3E	チャンネル 1 に対して 8259 割り込みマスクビットをテスト。
40	チャンネル 2 に対して 8259 割り込みマスクビットをテスト。
43	8259 機能をテスト。
47	EISA スロットを初期化。

49	1. 各 64K ページの最後のダブルワードをテストすることによって合計メモリを計算。 2. AMD K5 CPU に対して書き込み割り当てをプログラム。
4E	1. M1 CPU の MTRR をプログラム。 2. P6 クラスに対して L2 キャッシュを初期化し、適切なキャッシュ可能な範囲を持つ CPU をプログラム 3. P6 クラスの CPU に対して APIC を初期化。 4. MP プラットフォーム上で、各 CPU 感のキャッシュ可能な範囲が一致しない場合、キャッシュ可能な範囲をより小さな範囲に調整。
50	USB を初期化。
52	すべてのメモリをテスト（すべての拡張されたメモリを 0 にクリア）。
53	H/W ジャンパに従ってパスワードをクリア(オプション)
55	プロセッサの数を表示（多重プロセッサのプラットフォーム）。
57	PnP ロゴを表示。 初期 ISA PnP を初期化。 -CSN をすべての ISA PnP 装置に割り当て。
59	結合された Trend ウィルス防止コードを初期化。
5B	(オプション機能) FDD から AWDFLASH.EXE を入力するためのメッセージを表示(オプション)。
5D	1. Init_Onboard_Super_IO を初期化 2. Init_Onboard_AUDIO を初期化
60	Setup ユーティリティの入力が可能;つまり、この POST ステージが CMOS のセットアップユーティリティを入力するまでは入力不可能。
63	Early_Reset_KB が定義されていない場合、キーボードをリセット。
65	PS/2 マウスを初期化。
67	機能コール : INT 15h ax=E820h に対してメモリサイズの情報を準備。
69	L2 キャッシュをオンにする。
6B	Setup および自動構成表内に記述された項目に従ってチップセットレジスタをプログラム。
6D	1. リソースをすべての ISA PnP 装置に割り当て。 2. Setup 内の対応する項目が“AUTO”に設定されている場合、ボード上の COM ポートにポートを割り当て。
6F	1. フロッピーコントローラを初期化。 2. 40:ハードウェアでフロッピーに関連するフィールドをセットアップ。
75	すべての IDE 装置 (HDD、LS120、ZIP、CDROM など) を検出し、インストール。
76	(オプション機能) AWDFLASH.EXE を入力: - AWDFLASH がフロッピードライブに見つかった場合、 - ALT+F2 を押している場合
77	シリアルポートとパラレルポートを検出。
7A	コプロセッサを検出しインストール。
7C	Init HDD 書き込み保護

7F	<p>全画面ロゴがサポートされている場合、テキストモードに切り替え。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-エラーが発生する場合、エラーを報告しキー入力进行。</li> <li>-エラーが発生しない場合、または F1 キーが押されている場合続行:。</li> </ul> <p>◆EPA またはカスタマイズされたロゴをクリア。</p>
<b>E8POST.ASM のスタート</b>	
82	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チップセット電源管理フックをコール。</li> <li>2. EPA ロゴによって使用されているテキストフォントを回復（全画面ロゴに対しては未サポート）。</li> <li>3. パスワードが設定されている場合、パスワードの入力を求める。</li> </ol>
83	スタックにあるすべてのデータを CMOS に保存し直す。
84	ISA PnP ブート装置を初期化。
85	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. USB 最終初期化</li> <li>2. 画面をテキストモードに切り替え</li> </ol>
87	NET PC: SYSID 構造の構築
89	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IRQ を PCI デバイスに割り当て</li> <li>2. メモリの上部で ACPI 表をセットアップ。</li> </ol>
8B	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すべての ISA アダプタ ROM を呼び出し</li> <li>2. すべての PCI ROM を呼び出し(VGA を除く)</li> </ol>
8D	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. CMOS セットアップに従ってパリティチェックの有効/無効を切り替え</li> <li>2. APM 初期化</li> </ol>
8F	IRQ のノイズを消去
93	Trend ウィルス防止コードに対して HDD ブートセクタ情報の読み込み。
94	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. L2 キャッシュを有効</li> <li>2. 夏時間調整をプログラム</li> <li>3. 起動速度をプログラム</li> <li>4. チップセットの最終初期化。</li> <li>5. 電源管理の最終初期化</li> <li>6. 画面とディスプレイの要約表を消去</li> <li>7. K6 書き込み割り当てをプログラム</li> <li>8. P6 クラスの書き込み合成をプログラム</li> </ol>
95	Update キーボード LED と typematic rate (キーのオートリピート速度)
96	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. MP 表を構築。</li> <li>2. ESCD を構築し更新。</li> <li>3. CMOS センチュリーを 20h または 19h に設定。</li> <li>4. CMOS 時間を DOS のタイマチックにロード。</li> <li>5. MSIRQ の経路指定表を構築。</li> </ol>
FF	試みをブート(INT 19h)。

## AC2005 POST コード定義：

POST (16 進法)	説明
<b>電源オンシーケンス</b>	
8.1.	電源オンシーケンスの開始
8.2.	ATX 電源装置の有効
8.3.	ATX 電源装置の準備完了
8.4.	DDR 電圧の準備完了
8.5.	CPU コード電圧に対して PWM をセットアップ
8.6.	CPU コード電圧に対して PWM をアサート
8.7.	CPU エラー電圧をチェック
8.8.	CPU コア電圧の準備完了
8.9.	初期クロックジェネレータ IC
8.A.	ノースブリッジチップセット電圧の準備完了
8.B.	AGP 電圧の準備完了
8.C.	3VDUAL 電圧の準備完了
8.D.	VDDA 2.5V 電圧の準備完了
8.D.	GMCHVT 電圧の準備完了
8.E.	CPU ファン速度のチェック
8.F.	すべての電源準備完了をアサート
9.0.	uGuru 初期プロセスを完了 AWARD BIOS 起動ジョブを継承
<b>電源オフシーケンス</b>	
9.1.	電源オフシーケンスを開始
9.2.	すべての電源のアサート停止
9.3.	電源オンのアサートなし
9.4.	LDT バス電源おアサート停止
9.5.	CPU コア電圧に対する PWM のアサート停止
9.6.	CPU コア電圧のアサート停止
9.7.	CPU コア電圧のチェック
9.8.	ATX 電源装置のアサート停止
9.9.	電源オフシーケンスを完了
<b>その他</b>	
F.0.	ボタンリセット
F.1.	ソフトウェアリセット
F.2.	電源オンシーケンスのタイムアウト
F.3.	電源オフシーケンスのタイムオフ

**注意:** この小数点は、AC2005 POST アクションを実行しているときに点灯します。



## 付録 I. トラブルシューティング

### Q & A:

**Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?**

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

**Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?**

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

**Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?**

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

**Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?**

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せず、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

**例 1：** マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

#### それでも起動しない場合：

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうかが試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、「問題の説明」欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

#### 起動する場合：

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、「その他のカード」の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、および問題についての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

**例 2：** マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

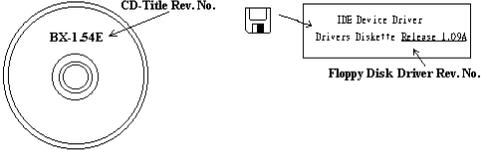
```
CONFIG.SYS:  
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS  
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN  
DOS=HIGH, UMB  
FILES=40  
BUFFERS=36  
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFMG.SYS  
LASTDRIVE=Z
```

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、「問題の説明」欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

主な注意事項...

[テクニカルサポート用紙] に必要事項を記入する場合、次の注意事項を守ってください。

- 1\* **モデル名** : ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。  
例 : AT8 32X
- 2\* **マザーボードのモデル番号 (REV)** : マザーボードに [REV:\*.\*\* ] と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。  
例 : REV: 1.00
- 3\* **BIOS ID および部品番号** : オンスクリーンのメッセージをご覧ください。
4. **ドライババージョン** : デバイスドライバのディスク (もしあれば) に [Release \*.\*]\*\*] などと記されているバージョン番号を記入します。  

- 5\* **OS/アプリケーション** : 使用している OS およびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。  
例 : MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT...
- 6\* **CPU** : CPU のメーカー名および速度 (MHz) を記入します。  
例 : (A) [メーカー名] の欄には [Intel]、[仕様] の欄には [Pentium® 4 1.9GHz] と記入します。
7. **HDD** : HDD のメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、 をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、IDE1] マスターとみなします。  
例 : [HDD] の欄のボックスをチェックし、メーカー名には [Seagate]、仕様の欄には [ST31621A (1.6GB) ] と記入します。
8. **CD-ROM ドライブ** : CD-ROM ドライブのメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使用しているかを記入します。また、“” をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、“IDE2”マスターとみなします。  
例 : “CD-ROM ドライブ”の欄のボックスをチェックし、メーカー名には “Mitsumi”、仕様の欄には “FX-400D”と記入します。
9. **システムメモリ (DDR SDRAM)**: システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CAS レイテンシ、速度 (MHz) のような、仕様 (DDR DIMM) を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。  
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度 (MHz): 200 MHz  
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。
10. **その他のカード** : 問題に関係しているのが “絶対確実である” カードを記入します。  
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

**注意** : [\*] の項目は必ず記入してください。

 テクニカルサポート用紙

 会社名：

 電話番号：

 連絡先：

 ファックス番号：

 E-mail：

モデル名	*	BIOS ID #	*
マザーボードの モデル番号		ドライババージョン	
OS/アプリケーション	*		
ハードウェア名	メーカー名	仕様	
CPU	*		
HDD	<input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2		
CD-ROM ドライブ	<input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2		
システムメモリ (DRAM)			
その他のカード			

問題の説明：

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

---

## 付録 J. テクニカルサポートの受け方について

---

(ホームページ) <http://www.abit.com.tw>

(米国) <http://www.abit-usa.com>

(ヨーロッパ) <http://www.abit.nl>

ABIT社のABIT製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABITはディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様は直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABITではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがって、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ABITは最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行ってみてください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。** マニュアルの作成には万全の注を払い、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外にも重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されているCD-ROMには、ドライバのほかにマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社のWebサイトまたはFTPサーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。
2. **最新のBIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。** 弊社のWebサイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンのBIOSをダウンロードしてください。また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、最新バージョンのドライバをインストールしてください。
3. **Webサイト上の専門用語集およびFAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。** 弊社では今後も引き続きFAQを充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQをご覧ください。

4. インターネットニュースグループをご利用ください。ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ ([alt.comp.periphs.mainboard.abit](http://alt.comp.periphs.mainboard.abit)) はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

[alt.comp.periphs.mainboard.abit](http://alt.comp.periphs.mainboard.abit)

[comp.sys.ibm.pc.hardware.chips](http://comp.sys.ibm.pc.hardware.chips)

[alt.comp.hardware.overclocking](http://alt.comp.hardware.overclocking)

[alt.comp.hardware.homebuilt](http://alt.comp.hardware.homebuilt)

[alt.comp.hardware.pc-homebuilt](http://alt.comp.hardware.pc-homebuilt)

5. リセラーへお問い合わせください。技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。
6. ABIT へお問い合わせください。ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様にサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

---

**北米、南米** *ABIT Computer (U.S.A.) Corporation*  
2901 Bayview Drive,  
Fremont, CA 94538, U.S.A.  
電話: 1-510-623-0500  
ファックス: 1-510-623-1092  
営業: [sales@abit-usa.com](mailto:sales@abit-usa.com)  
南米営業: [ventas@abit-usa.com](mailto:ventas@abit-usa.com)  
マーケティング: [marketing@abit-usa.com](mailto:marketing@abit-usa.com)  
ウェブサイト: <http://www.abit-usa.com>  
  
**RMA センター:** <http://rma.abit-usa.com/>

---

**英国、アイルランド** *ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.*  
Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage,  
Herts SG1 4QX, UK  
電話: 44-1438-228888  
ファックス: 44-1438-226333  
電子メール: [sales@abitcomputer.co.uk](mailto:sales@abitcomputer.co.uk)

---

**ドイツ、ベネルクス (ベルギー、オランダ、ルクセンブルク)、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス** *AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)*  
Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo,  
The Netherlands  
電話: 31-77-3204428  
ファックス: 31-77-3204420  
営業: [sales@abit.nl](mailto:sales@abit.nl)  
ウェブサイト: <http://www.abit.nl>

---

**オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア** *Asguard Computer Ges.m.b.H*  
Schmalbachstrasse 5,  
A-2201 Gerasdorf / Wien, Austria  
電話: 43-1-7346709  
ファックス: 43-1-7346713  
電子メール: [asguard@asguard.at](mailto:asguard@asguard.at)

---

**上海** *ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.*  
電話: 86-21-6235-1829  
ファックス: 86-21-6235-1832  
ウェブサイト: <http://www.abit.com.cn>

---

**ポーランド** *ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.*  
Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28, 50-149  
Wrocław  
電話: 48 71 780 78 65 / 66  
ファックス: 48 71 372 30 87

---

**台湾本社**

(上記以外の地域へのサービス  
台湾は8+ GMT 時間で  
お客様の地域とは休日が異なる可  
能性があります。)

**ABIT Computer Corporation**

No. 323, Yang Guang St., Neihu,  
Taipei, 114, Taiwan

電話: 886-2-8751-8888

ファックス: 886-2-8751-3382

営業: [sales@abit.com.tw](mailto:sales@abit.com.tw)

マーケティング: [market@abit.com.tw](mailto:market@abit.com.tw)

ウェブサイト: <http://www.abit.com.tw>

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。
8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその1つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

**ABIT Computer Corporation**

**<http://www.abit.com.tw>**